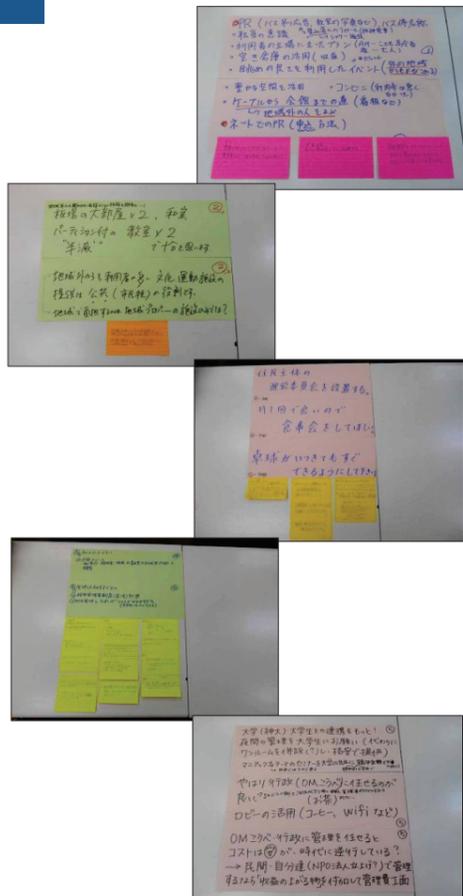


ワークショップの様子



各グループで書き出した意見

ファシリテーターからのコメント

今回は、「管理運営上の課題」や「誰がその運営を担うのか」といったことや「会館の今後の活動のために必要なスペース」について、活発な意見交換がなされました。しかも感心したのは、自らその運営に携わる立場にたったの真剣なご意見でした。会館のPRから企画運営に至ること、住民主体で行いたいことなど、より会館の活性化（利用率を高める）へ向けたものでした。

管理運営などの経費がかかり過ぎている面がいなめない会館の規模について、活動の観点からスペース（規模）は、今より小規模になってもこれからの活動が可能とのご意見がありました。

いずれにしても「会館」は「老朽」という難題をかかえています。耐震性能の向上は、耐震改修工事で解決は出来そうですが、今後さらに起こってくる設備老朽化や内部空間の陳腐化は、取替えや修繕が必要となるなどのメンテナンスに莫大な費用を要することになります。これらの費用は、会館の規模により大きく左右されることとなります。

必要で最小限の規模をみすえた「会館」のあり方を住民も参加した中で進めていかれることを望んでいます。

お問い合わせ先(事務局)

神戸市みなと総局経営企画部分譲推進課管理係【鶴甲ワークショップ担当】

TEL:078-322-5704/FAX:078-322-6136

第3号

鶴甲会館リニューアル通信

発行日/平成27年9月27日

発行/神戸市みなと総局

意見取りまとめ・発行協力/森崎建築設計事務所

「鶴甲会館ワークショップ」(第4回)が開催されました!

鶴甲会館をコミュニティ活動の拠点としていくために、団地に関わる様々な方々に会館の将来像について話し合っていた「鶴甲会館ワークショップ」の第4回が、平成27年9月5日(土)に開催されました。

当日は、28名の方にご参加いただき、「鶴甲会館の管理・運営を考える」というテーマで話し合いました。ファシリテーター(進行役)の森崎先生による進行のもと、参加者の皆さんには、活発に意見を交わして頂きました。

第4回プログラム

- 1.前回の振り返り
- 2.会館の管理運営業務について
- 3.他地域の事例の紹介
- 4.ワークショップの進め方
- 5.グループ討議
- 6.各グループによる発表
- 7.ワークショップのまとめ
- 8.次回の案内など

第4回の内容は・・・

第4回は、初めにファシリテーターから、現在の鶴甲会館の管理運営業務内容と、市内の他地域のコミュニティ施設の状況について紹介を受けました。

前半は、第2回ワークショップで出された「鶴甲会館の課題」の内、管理運営面の課題を取り上げ、解決するにはどうすれば良いか話し合いました。

後半は、「会館での活動に必要なスペースは」、「誰が会館を管理運営するのか」の2つの質問について、意見を交換しました。

現在の鶴甲会館では次のような業務がされています。

運営にかかる業務

予算決算等会計処理
会議室受付、利用承認
文化教室の誘致、契約
利用料の収受・保管
事務用品等の購入
IT関係機器購入(リース)
パンフレット作成、印刷
保険付保
光熱水費等各種支払い
市への業務状況報告
夜間管理業務の委託

施設管理にかかる業務

施設の鍵の開閉
警備機器の設置、操作
消耗品・備品の補充、交換
防火管理
日常清掃
ごみ処分
設備点検
日常の小規模補修
定期的な大規模補修
臨時的な大規模補修
植栽管理
駐車場管理

他地域のコミュニティ施設では



ファシリテーターから紹介のあった、須磨区月見山のコミュニティ施設では、自治会の総会や新年会、公開講座の開催などの地域活動に利用されており、地域で管理運営もされています。地域活動や施設の管理運営を通して、地域住民のコミュニティを育む場となっているようです。

今回のテーマは「鶴甲会館の管理・運営を考える」ということで・・・

今回のワークショップでも、参加者の皆さんに5グループに分かれていただき、3つの質問について意見を交換していただきました。出された意見を、以下に紹介します。

①鶴甲会館の管理運営についての課題を解決するためには？

【第2回ワークショップで出された課題】

- ・利用率が低い・夜間利用などゆるやかな管理を・よりロビーの活用を（例えば、喫茶室）
- ・高齢者向けのサービスや教室が少ない ・会館主催のイベント等もっと、営業努力を
- ・ビジネスセンター化へ（パソコンなどの設置）

- ・バスに吊り広告を出したり、チラシを配付するなどによる積極的なPR。
- ・ホームページの作成やネットで利用申し込みを可能に。
- ・六甲ケーブルから降りてくる道に看板を設置し、外部の人を呼び込む。
- ・文化教室の発表会や、眺めの良さを生かしたイベントの開催。
- ・月に1回程度、食事会の開催。（外部のレストランと協力）
- ・大学と協力し、マニアックな分野のセミナー会場として利用し、全国から人を集める。
- ・倉庫が余っているのなら、貸すなどして収益につなげる。
- ・卓球がいつ来てもできるようにする。
- ・喫茶、軽食コーナーを設置。
- ・wifiスポットの設置。
- ・利用率向上のため、ふれまちな活動を会館に持ち込む。
- ・ワンルームマンションを併設し、入居者（学生）が夜間管理。
- ・行政に任せる。
- ・住民主体の運営委員会を設置。
- ・利用率向上に対する職員の意識が低いのでは？

≪その他の意見≫

- ・会館の性格（位置づけ）のとりえ方が違う。外部の方も利用する営利会館であって、地域のコミュニティ会館ではない。

より自由に使いやすいものにとの意見が多く出され、そのためには、住民が主体となった運営という提案は、すごく健全なものと感じました。（森崎）

みなと総局に今考えている管理運営のあり方について尋ねてみました。

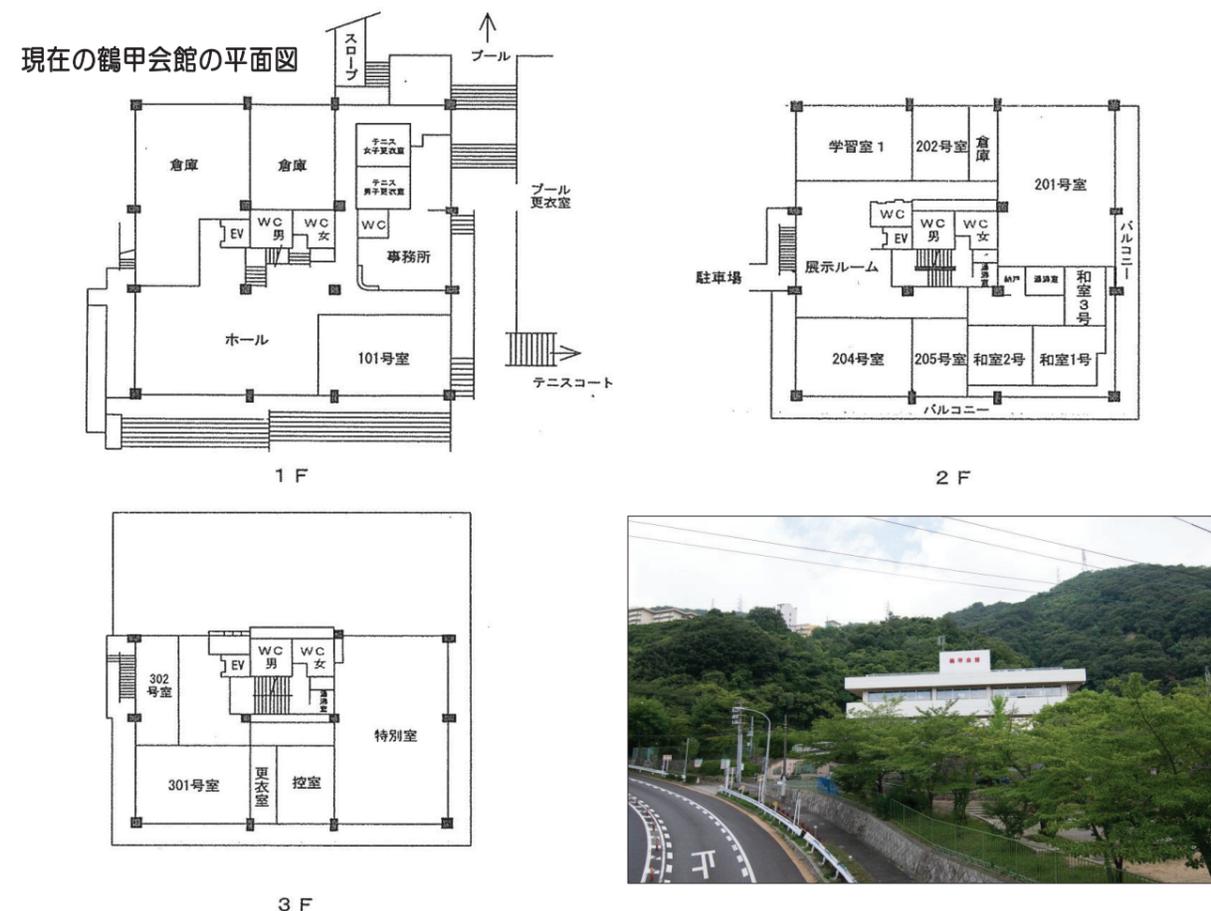
【神戸市の基本的な考え方は以下のとおりです】

- ・鶴甲会館は、団地の整備に合わせて、住民のコミュニティ施設として整備し、開設以来、神戸市が所有し、OMこうべ（旧開発管理事業団）が管理運営してきた。
- ・神戸市内の他の地域では、コミュニティ施設は地域活動の一環として地域の方が運営されている。
- ・鶴甲会館についても、時代の流れの中で団地内に地域福祉センターができると共に、利用の形が変わってきており、今後は地域による自主管理が望ましいと考えている。
- ・再整備にあたっては、改修工事という手法も考えられるが、今後将来にわたって地域のコミュニティ施設として利用され、維持管理していくことを考えると、適正な規模を検討し、維持管理費を抑えた建物に建て替えるほうが良いのではと考えている。
- ・地域で管理運営される場合でも、当初からすべて地域で行うのではなく、段階的に地域による自主管理運営に移行していくことも考えている。

②必要なスペースは？

- ・洋室（大・中・小）、和室（大・中・小）と特別室。今の2/3程度の面積は必要。
- ・板間の大部屋を2室、和室、パーティションで区切れる教室を2室。今の1/2程度の面積で十分。
- ・3階を撤去し、2階建てに減築する。
- ・現状の広さを確保。

具体的には、プラン（平面図）をつくって検討してみないとその規模は定かでないのですが、規模が大きすぎるという印象は参加された方々もお持ちのようでした。今後、適正な建物の規模はどれくらいなのかシミュレーションする必要がありそうです。（森崎）



③誰が会館を管理・運営する？

- ・NPO法人を作り、市から委託を受けて管理運営。
- ・住民主体の運営委員会を設置する。
- ・指定管理者制度の活用。
- ・事務的な作業は民間委託、企画は住民でやる。委託するためにも収益機能が必要。
- ・文化運動施設は行政が、地域のコミュニティ施設は地域で管理運営する。
- ・管理は今のまま行政で。
- ・今の規模で地域に丸投げされると難しい。

機能によって、行政と地域で管理運営を分担するという意見も出されました。今の規模をすべて地域で管理運営というのは厳しい部分がありそうです。（森崎）